

## Oncocytic change が認められたイヌ虹彩毛様体腺癌の 1 例

○大川内充輝<sup>1</sup>、坪井誠也<sup>2</sup>、二瓶和美<sup>1,3</sup>、長峯栄路<sup>1</sup>、岩根英明<sup>4</sup>、内田和幸<sup>2</sup>

<sup>1</sup>サンリツセルコバ検査センター、<sup>2</sup>東大、<sup>3</sup>日本動物高度医療センター、<sup>4</sup>いわね動物病院

Oncocytic change は細胞質内のミトコンドリアの蓄積によって細胞質が好酸性顆粒状に腫大する現象である。イヌでは甲状腺、喉頭、腎臓などで Oncocytoma の報告がある。今回、イヌの虹彩毛様体腺癌において腫瘍細胞の一部に Oncocytic change が認められたので病理学的に検討した。【症例と方法】 ウェルシュ・コーギー犬、年齢不詳、避妊雌。視力低下を主訴に近医を受診。左眼の眼圧上昇と眼球内腫瘍が認められ外科的に眼球を摘出した。既往歴は右眼の悪性黒色腫と多発性乳腺腫瘍（一部悪性）。摘出組織は 10%ホルマリンで固定後、定法に基づいて標本を作製し、病理組織学的検索を実施した。【結果】 腫瘍巣は毛様体と連続しており、立方/円柱状の腫瘍細胞が柵状や腺腔様構造を形成して増殖する部位と Oncocytic 様の腫瘍細胞が充実性に増殖する部位が混在し、一部で強膜へ浸潤していた。PAS 染色では基底膜様構造が認められた。免疫染色ではいずれの腫瘍細胞も Cytochrome C 陽性であったが、特に Oncocytic 様細胞で強陽性であった。立方/円柱状細胞は vimentin 陽性、AE1/AE3 一部陽性、CK20 陰性で、Oncocyte 様細胞はこれらの抗体に全て陰性であった。【考察】 イヌの虹彩毛様体上皮腫瘍における腫瘍細胞の Oncocytic change は過去に報告が無いが、本症例では免疫組織学的に腫瘍細胞の Oncocytic change であることが明らかとなった。イヌの虹彩毛様体腺癌における Oncocytic change の病理発生機序は明らかではないが、ヒトの甲状腺腫瘍の Hürthle cell ではミトコンドリア代謝や細胞死の調節に関与する遺伝子異常との関連が示唆されており、本腫瘍においてもこの様な遺伝子異常が関与している可能性がある。また、強膜への浸潤を伴う虹彩毛様体腺癌では AE1/AE3 陽性、CK20 陰性であることが報告されており、本症例でも同様の所見が認められたことは悪性腫瘍を支持する所見と思われた。